そうがく

（No. ７４）
R5. 7. 19 発行
現職研修委員会
総合的な学習部編集

「たんきゅう」がもたらすもの

総合的な学習部長　山内　貴弘

総合的な学習の時間は、「教科横断的・総合的な学習や探究的な学習を通して、自ら課題を見付け、自ら学び、考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育成するとともに、学び方やものの考え方を身に付け、問題の解決や探究活動に主体的、創造的、協同的に取り組む態度を育て、自己の生き方を考えることができるようにする」という目的でこれまで実施されてきた。そのため、時間だけが設定され、指導内容は学校の裁量に任されることになった。

しかし、教科書もない、テーマも指導方法も自由という「時間」での指導は、豊富な経験と高い指導力をもつ教員でなければ十分な成果をあげることは難しいとされ、全ての学校が有意義に実施することに疑問が投げかけられてきた傾向がある。しかし、本当にそうだろうか。これまでも教師の経験値を超えて児童生徒と共に本気の探究を展開してきた例をいくつも目にした。その一つに本校の二年生が昨年度実践した「矢作マーケット」がある。ここ数年、コロナ禍により職場体験学習を計画することができない中、何とか体験学習をという教師と生徒の思いが、地域の事業所において、会社・工場の商品を「販売する」という体験活動の場として実現した。各学級が、地域の名産品、商業高校等との連携、フェアトレード商品をそれぞれの視点で開発し、収支バランスを考えて販売する過程を通して様々な分野の大人たちに出会い、その思いに気付き、共感しながら地域社会に生きる意味を探究する学習である。

その体験活動で特に印象に残ったのは、子供とともに活動する元気な教師の姿である。その理由として、二つのことが考えられる。一つは、子供の成長や変容が教師を元気にするということ。もう一つは、体験活動自体が教師を元気にするということである。これはなぜだろう。教師は子供の変容を望み、子供の成長を実感したときに手応えを感じる。子供の豊かで確かな成長こそが、教師にとって代えがたい喜びとなるのである。

また、もう一方で、体験活動を学習活動に位置付けることで、教師自身も多くを学ぶ機会に恵まれる。例えば、ビジネスとしての戦略、店頭での振る舞い、事業所が地域を大切にする思いに触れ、今まで知らなかった地域の価値、見えていなかった地域の人や社会の動きが見えるようになってくる。そこに新たな人間関係が生まれ、教師自身も充実感や達成感、地域との一体感を感じ元気になっていくのである。こうして「矢作マーケット」は、教師のファシリテーションの大切さも明らかにした。一方、マーケットで得た収益金で、ＳＤＧｓバッチを購入した。最高学年となった生徒全員の胸にバッジが誇らしく光っている。この教材、生徒、教師の論理の融合した学びは、探究学習だからこそ生み出せる姿である。

本年度の研究の方針

生活総合指導員　竜海中学校　酒井　智之

■研究主題■

『主体的・協働的に探究し、よりよく課題を解決する総合的な学習の授業』

■研究の重点■

・子供が切実感をもち、自分事となる課題設定。
・「課題設定」「情報収集」「整理・分析」「まとめ・表現」の四つの過程を繰り返す探究的な学習。
・多様な学習集団や学習形態の工夫。
・地域の「人・もの・こと」の積極的活用。
・評価規準の設定や評価方法の工夫。

■子供たちに学びを委ねる学習を目指す■

総合的な学習の時間の目標を実現するには、「研究の重点」でも示したように、探究的な学習のプロセスが重要です。そして、子供に学びを委ねながら学びの連続性を生み出すためにも、学習課題を子供の声でつないでいくことが求められます。子供たちが「学びたい」「学ぶ必要がある」と感じる授業を展開することが、私たち教師の願いでもあると思います。そこで、本年度も授業の終末で行う振り返りを大切にしたいと考えます。振り返りの場における発言を価値付けることで、子供たちの学びに向かう力は一層高まります。友達の振り返りをもとにして学級全体に問い返すことで、学びに対する視野が広がります。振り返りを効果的に活用し、教師の学ばせたいことに子供たちを付き合わせる授業ではなく、子供たちの学びたいことに寄り添った実践が展開されることを心から期待しています。

研究・研修報告

研修部

六月十七日（土）十八日（日）に、日本生活科・総合的学習教育学会主催の第三十一回全国大会（神奈川大会）が、対面とオンラインのハイブリッド方式で開催されました。初日は、幼稚園・保育園、相模原市立の小中学校、相模女子大高等部を会場に公開保育、公開授業が行われました。午後からは、自由研究発表・課題別研究発表が行われました。

二日目に開催されたシンポジウムでは、シンポジストとして鹿毛雅治教授（慶應義塾大学）小島亜華里特任准教授（奈良教育大学）青木博子園長（新潟市立沼垂幼稚園）コーディネーターとして田村学教授（國學院大學）が登壇されました。『問いをもち協働的に探究する子供の姿から　教育の未来を』というテーマでシンポジウムが行われました。コロナ禍で飛躍的に進んだ一人一台端末の利便性を生かしながら、対面での活動の良さに目を向け、効果的な利活用の仕方を模索するなど、現在直面する課題に目を向けた議論が繰り広げられました。

今年度、第一回岡崎総合的な学習研究会（岡総研）は六月二日（金）に開催予定でしたが、豪雨に伴い中止となりました。第二回は、十月十三日（金）一八時三十分から、総合学習センターにて行うことを予定しています。

学び舎の　総合耳寄り情報

広幡小学校の三年生は、学区の神明宮大祭に関わる人と出会い、踊りやお囃子を教えていただいたり、はっぴや山車を作ったりしています。長く続く祭りを支えている人がいることを感じ、自分たちが守っていきたいという思いをもつようになっています。

広幡小　中村　洋子

児童が田植えをした田んぼが、若草色に染まっています。本校五年生は稲作体験を通して、ふるさと形埜の人、もの、ことに関わる学習を進めています。昨年度の児童は、地域で作られている「ミネアサヒ」をもっと多くの人に知ってほしいという願いをもち、ポスターやアンケートを作るなど、これまでにない活動が提案されました。

今年度も、学びから生まれた児童の願いが活動につながっていく学習を実践していきたいです。

形埜小　大竹　紗弥加

本校では、三年生が学校の木について学習しています。一年を通して季節ごとに見せる木の変化を観察しています。

樹木医の方に来ていただいて、知識や特徴を教えてもらったり、疑問を解決したりし、学びを深めています。

上地小　伊豫田　愛

本校では、五年生がバケツで米作りに取り組んでいます。学区で米作りをしている兵藤一則さんらを講師に迎え、五月には土入れから苗植えまでを一緒に行いました。水の管理に気を付けながら、秋の収穫に向けて大切に育てています。

六西小　大野　真綾

今年の竜南中学校の一年生は、一学期に学区の魅力を発信するためにパンフレット作りをします。誰もが竜南学区に来たくなるようなキャッチコピーを考えたり、校外学習で撮った写真の見せ方を友達と相談したりしています。この一学期の学習を発展させ、二学期は自分で決めたテーマをもとに岡崎の魅力をまとめていきます。

竜南中　片岡　由己